

レジ袋有料化とコロナで大きく意識が変化 箱に付ける紙の取っ手『クラフトハンドル』で“はこぶ”を変える 包装資材から取り組むSDGsをニッチトップメーカーが提案

紙袋用取っ手の国内トップメーカーの松浦産業（香川県善通寺市、代表取締役：松浦公之）は、従来品の取っ手製造技術を応用し、商品を梱包する箱に取り付けられる環境に配慮した紙の取っ手『クラフトハンドル』を開発し、2021年1月から取り扱いを開始いたしました。



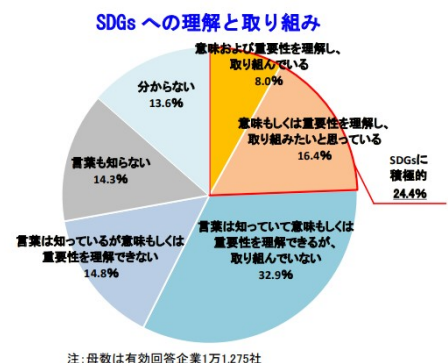
クラフトハンドル装着 外側



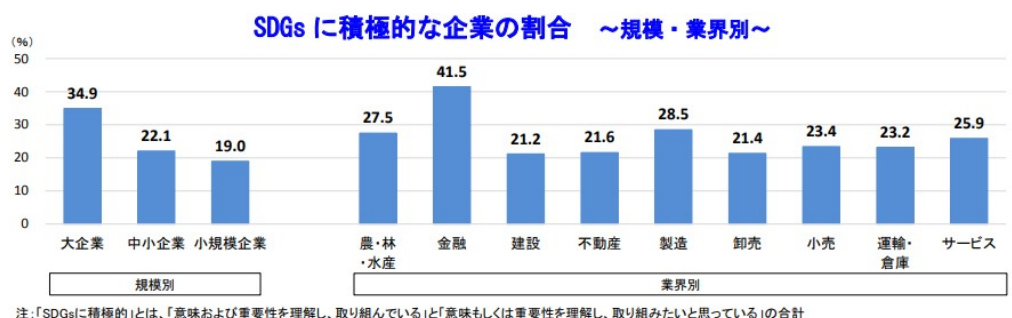
クラフトハンドル 内側

■SDGsに積極的な企業は24.4%、一方で半数近くは認知しつつも取り組んでいない

2020年6月に帝国データバンクが全国1万1,275社に対して「SDGsに関する企業の見解について」調査を実施した結果によると、「意味および重要性を理解し、取り組んでいる」企業は8.0%。また、「意味もしくは重要性を理解し、取り組みたいと思っている」は16.4%で、合計するとSDGsに積極的な企業は24.4%で4社に1社という結果となりました。また、「言葉は知っていて意味もしくは重要性を理解できるが、取り組んでいない」（32.9%）が3割超となり、「言葉は知っているが意味もしくは重要性を理解できない」（14.8%）といった、SDGs



の存在は認知しているものの取り組んでいない企業が半数近くにのぼりました。SDGsに積極的な企業を規模別でみると「大企業」は34.9%で全体（24.4%）を10.5ポイント上回っている。しかし、「中小企業」は22.1%、「小規模企業」は19.0%となっており大企業と比べて大きく下回っている。



■『クラフトハンドル』誕生の背景

【本件に関する報道関係の皆さまからのお問い合わせ先】
松浦産業株式会社 PR 事務局（株式会社 Power-D 内）
武部：090-1631-8467 MAIL: press@power-d.tokyo

出典：帝国データバンク
調査期間：2020年6月17日～30日
調査対象：全国2万3,681社で、有効回答企業数1万1,275社
<https://www.tdb-di.com>

これまで SDGs は政府や自治体を中心に展開されてきましたが、近年は民間企業においても積極的に関与する機運が高まっています。また SDGs の目標達成への貢献によって新たなビジネスチャンスへのつながりや企業の魅力向上、それにともなう新たな人材の獲得など、さまざまな効果も期待されています。食品や日用品を取り扱うメーカー各社も、昨年7月から開始した「レジ袋有料化」を受けて商品の包装について見直す行動が活発化しています。松浦産業は袋の減少から箱需要を視野に入れた古紙回収分別不要の紙製『クラフトハンドル』を48種類のカラー展開で開始しました。



■『クラフトハンドル』の4つの特徴

1. 商品を包装している箱に取付けてそのまま運ぶことができる
2. 差し込むだけで取手が付くので作業性がアップする
3. 紙箱と同素材なので捨てる際に分別せず廃棄できて土へ還することができる
4. 全48種類のカラーであらゆる色の紙箱に対応することができる

■レジ袋だけでなく紙袋も使わない商品を入れた箱をそのまま運ぶという選択

これまでの商品包装の概念は、商品を入れた箱をさらにプラスチックまたは紙でできた袋に入れるのが主流でした。しかし、レジ袋の有料化(一部紙袋も含む)の流れを受け、商品をいれた紙箱をそのまま持ち運ぶというスタイルが増えてきました。これにより紙袋メーカーも紙器の開発に力を注ぐ傾向にあります。多くのメーカーは、その世界感、商品の画像や利用方法を紙箱で表現していることが多く、紙箱を持ち運ぶこのスタイルは購入したお客様に自社商品のPRをしていただくことにもつながります。紙製の取手『クラフトハンドル』という選択は、SDGsに取り組む企業としての姿勢を示すことができる紙箱には必要不可欠な存在です。



クラフトハンドル

■取手のバリエーション

松浦産業では、『クラフトハンドル』のほかにも、様々なニーズに対応する箱に付ける取手を開発しています。

『カンタッグ』

紐の両端にプラスチック成型品でストッパーを付けた商品で、「簡単に装着できる「タッグ」という特徴からこの名前が生まれました。菓子メーカー等で使用されており、紐部分はリボンなどで高級感を演出できます。



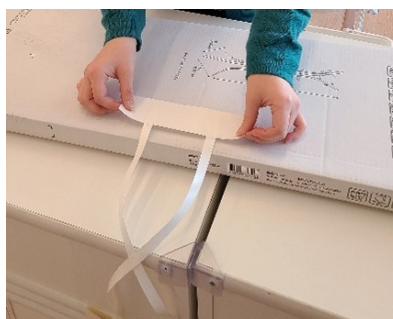
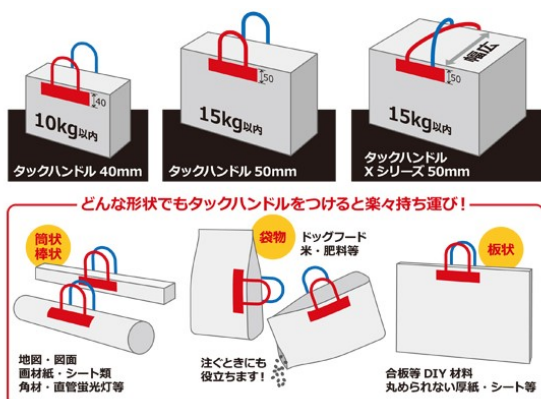
↑カンタッグ内側

←カンタッグ外側

『タックハンドル』

【本件に関する報道関係の皆さまからのお問い合わせ先】
松浦産業株式会社 PR 事務局 (株式会社 Power-D 内)
武部 : 090-1631-8467 MAIL: press@power-d.tokyo

大手メーカーとの共同開発により誕生した商品で、紙箱に直接装着してそのまま運ぶことができます。商品の形を選ぶことなく装着できる利便性から様々な場所でご利用いただいています。最近では、おうち時間が増えたことで、酒類の箱買い、家電の買い替え、DIYへ挑戦する人等が増え、飲料メーカーをはじめ家電メーカー、ホームセンター、衣料品メーカー等幅広い分野で『タックハンドル』の需要が増えています。



■プラスチックにしかできないこと

商品の特性上、プラスチック包装を変えられない場合もあります。例えば化粧品やヘアケア商品のセット販売の場合、購入者がセット内容を外から見えるよう透明な袋、紙箱、高透明のクリアケース等へ入れて販売しています。紙箱が一番環境に優しいのですが、商品が見えにくく店頭で陳列する際にほこりやごみが入ってしまうというデメリットがあります。



また、高級シリーズの展開や季節感を打ち出す場合、他のシリーズとの差別化や世界観を演出できる「クリアケース+プラスティックの取っ手」は中身が完全に見える安心感と高級感を保ちつつ、そのままお客様が持ち帰りできるように工夫され一石二鳥の優れた効果を発揮します。このように、私たちの生活シーンではプラスチックにしかできない役割が存在します。

松浦産業では、SDGs 目標 12「つくる責任 つかう責任」に準じた再生プラスチック原料を使用した循環型製品の製造販売も早くから進めてまいりました。また、ライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる環境ラベル「エコマーク」商品の製造販売にも力を注いでいます。それぞれのニーズに合わせ、松浦産業にしかできないことを追求し製品開発をこれからも進めています。



【本件に関する報道関係の皆さまからのお問い合わせ先】
 松浦産業株式会社 PR 事務局（株式会社 Power-D 内）
 武部：090-1631-8467 MAIL：press@power-d.tokyo

松浦産業株式会社は、紙袋の「取っ手」という皆さまの手に触れる身近な商品を扱っており、「私たちは、幸せを運んでいる。」をビジョンに掲げています。ビジョンはそのままに、D2C 事業、また、取っ手の技術を活かしたプラスチック成型品に注力してまいります。

【商品についてのお問い合わせ先】

松浦産業株式会社 東京営業部 TEL : 03-5445-1567

■会社概要

会社名 : 松浦産業株式会社

代表取締役社長 : 松浦公之

本社所在地 : 香川県善通寺市上吉田町 270-1

創業 : 1932 年 4 月 25 日

資本金 : 8,000 万円

従業員数 : 45 名 (2020 年 7 月現在)

事業内容 : PP・PE 延伸テープ及びロープ、紙袋用把手、タックハンドル、SP (販促商品)、成型品

ホームページ : <https://matsuura-sangyo.co.jp/>



1932 年にわら縄ロープ生産からスタートした松浦産業株式会社は、1966 年から PP・PE 延伸ロープ生産を始め本格的にプラスチック業界に進出しました。現在は紙袋用取っ手の国内トップシェアメーカーとして、食品・アパレル・小売など様々な業界の紙袋の取っ手やタックハンドル (ダンボールなどに直接貼るシールタイプの取っ手) を生産しています。また、プラスチックの成型技術を生かして、大型テーマパークのプラスチック容器や企業の販促商品なども生産しています。

「私たちは、幸せを運んでいる。」をビジョンに掲げ、松浦産業株式会社は創業から約 90 年、皆さまの直接手に触れる取っ手という商品を作ってきました。今後は、ニッチトップメーカーとして多様化する取っ手ニーズに対応しながらも、人々にとってより身近な衛生用品やプラスチック成型品事業に注力していく予定です。

【本件に関する報道関係の皆さまからのお問い合わせ先】
松浦産業株式会社 PR 事務局 (株式会社 Power-D 内)
武部 : 090-1631-8467 MAIL: press@power-d.tokyo